

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ローリエ				公表日		令和8年3月31日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	0					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	掃除を毎日行うとともに危険な所はないか チェックをして子ども達を受け入れている。	危険箇所等のチェックは今後も、日々の支援の中で毎日実施していく。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	状況・状態を見て使う部屋を分けている。 子どもの状況に応じて休息・クールダウンなどができる和室を提供できるよう準備している。 個別対応のの部屋があるため、個の様子に合わせた対応ができる。 事業所内に畳の部屋があり落ち着いて過ごしたりしたい場合は使用し、ゆっくりと休めるようになっていると思います。 クールダウンができる小部屋が設置されており必要に応じて利用できる。				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	保護者会・連絡帳等で意向意見を把握する機会がある。 不満等の意見が寄せられた時はその点について早急に改善すべく話し合いをしている。				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	月2回職員会を行い職員間の認識共有を深めている。				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7		今は立ち上がっていないが、今後設立を検討していく。（理事会では外部の意見も聞いている）			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	月一回研修会を行い職員の資質向上を図っている。 毎月、研修を行い受講している。 パートのため参加していない。 毎月の研修会にて、資質向上を図る場がある。研修なども受けることができる。 毎月一回行われる研修会で事例検討をして講師の先生からいただいたアドバイスを事業所で実践しています。 定期的に外部講師による研修会が開催され専門知識の向上に努めている。				
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	職員同士で情報の共有をし、常に相談することができる。				

13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	職員間での話し合いの場・相談できる場が設けられ、子に合わせたより良い支援計画が作られている。 職員間で子どもの様子について情報共有し支援方法を検討し計画を作成している。	
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0		
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0		
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0	地域資源を活用し、ひのきの葉切り作業など実践的な経験を通して社会性や責任感の育成を図っている。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	子ども達の関心・興味が持てそうなこと、自立に向けてより良い支援の方法を職員一同で考えている。 週案を立てる際、チームで相談する時間を設けている。 日々の活動を考える際には、職員間で相談しながら行っています。	
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	状況に応じて変化させている。 土曜・祝日などに子どもたちが様々な体験ができるように企画を立て工夫している。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0		
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	迎への送迎前に送迎の確認やその日の利用時の支援についての確認を行い職員間で必ず行っている。 支援開始前に、その日の活動で自分がどの役割を担いどのように動くか確認してから支援をしています。	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	送迎後、記録を書きながらその日の子ども達の気づきを振り返り情報共有している。 気になったことなど、タイムラグが生じないように迅速に対応共有している。	引き続き、毎日の支援終了時には、振り返りミーティングを実施し、当日の反省点や翌日の送迎の確認、利用予定児童の確認を怠らないようにする。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	こどもの状況をよく見て記録している。 毎日の記録を取り、見直しのため記録を読み返すこともできる。 日々の借る同記録を書く際には子どもの様子を細かく他の職員にも聞きながら気になる様子は必ず記録し次の支援に繋げていると思います。 日々の記録をもとに職員間で情報共有を行い、支援内容の見直しや工夫につなげている。	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0		
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	7	0		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	押しつけではない支援となることを心掛けている。	全てを自由にということではなく、自主性というものをどう引き出していかの支援技術を向上させていくことが大切である。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	関係者会議（支援会議）には児発管または主任が参加し利用時の支援の工場を図っている。	
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0		必要な関係機関とは、躊躇せずに連携が取れる様、法人全体で体制を整えていく。

関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	連絡や会話を細かく行い共有している。 学校との連絡を取り合い情報共有を行うことが出来ている。	各学校の教頭、担任教諭等と日頃より連絡を取り合っており、利用児童の安心安全な利用に繋がるよう努めている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	0		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	0		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	0	事業所としては行っていないが、法人全体としては行っている。 地域のどんど焼き準備に参加し、地域の子ども達と一緒に活動している。	ローリエではなかなか少ないが、法人内の他事業所では児童クラブとの行事を行う機会を設けている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	0	各部に積極的に参加し意見交換することができる。 自立支援協議会の部会に参加し、就労や移行支援に関する情報共有を行っている。	自立支援協議会への参加は、法人として今後も積極的に実施していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	連絡帳や送迎時などで様子や気になることを伝えている。 連絡帳や送迎の際に子どもたちの様子や伝えたりお聞きするように心掛けている。	毎日の送迎時の保護者との簡単な情報共有が大事であると認識しており、必ずその日の様子などを短時間で良いので共有するようにしている。
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	毎年、ペアレントトレーニングを法人で開催し保護者に参加いただいている。 ペアレントトレーニングを年に数回行っており、家族支援を行ったり職員も参加できるため研修に参加できる。	ペアレントトレーニングは、保護者支援の重要な事業として位置づけている。今後も毎年継続実施していく。	
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	0	年3回保護者会を開催し、保護者同士の交流や意見交換ができる機会を作っている。 保護者会が年3回開催され、保護者同士の交流、情報交換ができる。 学期ごとに保護者会を行い事業所内での子どもたちの活動の様子や保護者の方たちの悩みを話し合ったり交流できる機会を設けていると思います。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	苦情対応について窓口を設けている。苦情があった場合はスピード感を持って対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	約月一回りんご通信を発行し、保護者に活動の様子等をお知らせしている。 りんご通信を毎月発行して日々の活動について保護者や学校に伝えている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	個人情報の取扱いについて職員間で周知徹底し適切に管理している。	
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0			

	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	ガレージコンサート等に地域の方もお招きし地域に開かれた運営を図っている。コンサートや人形劇など事象所内で開催する際、広く声掛けしている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	事業所内にマニュアルが貼られ常に確認できる。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	初回面談時に服薬状況を確認し安全配慮した支援体制を整えている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	避難訓練、防災訓練を企画し、職員や子どもたちと訓練をし共通理解をしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ヒヤリハットは職員会で職員に共有し、再発防止に努めている。 ヒヤリハットの共有で再発防止につながり、対策や見直しをすることができる。 小さな気づきも記録し、共有することで事故を未然に防ぐ体制づくりを行っている。	ヒヤリハットは対策として必ず事業所内だけでなく、法人全体の職員会でも検討する事としている。全職員が自分事として再発防止に取り組む姿勢を大切にしていきたい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	月1回職員会の後に必ず研修会を行い虐待防止に努めている。 月に一回虐待防止委員会が開かれ、勉強会が設けられている。 どのような言動が虐待につながるのか法人全体で勉強する機会がある。 毎月一回虐待防止委員会を行い研鑽を重ねている	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	毎月身体拘束適正化委員会で様々なケースを想定してとりまとめ計画に反映させている		